

瀬戸内町文化協会の活動及び令和7年度瀬戸内町子ども文化祭について

～これからの文化協会のあり方～

瀬戸内町文化協会 会長 城山 洋子

1 はじめに

瀬戸内町文化協会は、地域文化の創造発展と併せて会員相互の親睦を図り、地域文化の振興に寄与することを目的としています。令和7年度は、加盟団体数42団体647名の会員で活動を行っています。令和6年度に比べると加盟団体が3団体、会員数が114名も増加しています。特に子ども達の数が大幅に増えています。令和元年から、協会の自主事業として子ども文化祭を開催していることにより、子ども達の文化に対する意識が高まった結果ではないでしょうか。伝統文化及び芸術の担い手育成及び継承活動として、今後も引き続き地域文化を発信していきたいと思っております。

瀬戸内町文化協会加入団体数・会員数の推移

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
加盟団体数	35団体	35団体	37団体	39団体	42団体
会員数	543	543	463	533	647

2 活動組織

各部門毎に理事を選出し、文化協会の目的達成のため協議し活動に向けています。

また、事業推進のため文化祭実行委員会及び子ども文化祭実行委員会（古仁屋高校生も含む）を立ち上げ活動を行っています。

3 事業内容

- ・ 地域文化の継承、保存活動
- ・ 各種発表会及び展示会
- ・ 八月踊り大会
- ・ 文化祭・子ども文化祭
- ・ 地域文化の継承・保存活動助成金交付

4 今年度の活動計画

令和7年 11月 15～16日	瀬戸内町文化祭	きゅら島交流館	展示 15～16日 舞台発表 16日
令和8年 1月 17～18日	子ども文化祭	きゅら島交流館	展示 17～18日 舞台発表 18日

・文化祭での舞台発表及び展示



【舞台発表 23 団体 270 名の出演者】



【作品展示 14 団体 300 展余りの作品】

・子ども文化祭での舞台発表及び展示



舞台発表では 15 団体 140 名余り、作品展示では 1 団体の参加。
特に多くの古仁屋高校生が参加。

5 成果と今後の課題

瀬戸内町には、それぞれの集落において、古くから伝わる独自の伝統芸能がありますが、今年度文化協会に新たに吹奏楽団や子どもたちが多数所属するダンススタジオが加入しました。瀬戸内町の町民にとって文化祭や子ども文化祭という発表の舞台があることは伝統を継承していくとともに新たな文化の風を取り入れていくことに繋がっていると感じます。

集落の豊年祭も、高齢化や人口減少により地域文化保存継承に影響しつつあります。文化協会に於いても高齢化が進んでいて、文化祭・子ども文化祭以外に伝統芸能部門に特化したイベントの企画などあらたな取り組みも検討しつつ、地域文化の保存継承・発展の中心的役割を担っていきたいと思います。また、次世代の担い手となる子ども達の伝統芸能の保存継承育成事業に力を入れ底辺拡大に努めて参ります。

つながりを，もう一度

～龍郷町文化協会 再生への一歩～

龍郷町教育委員会事務局 重田 美咲

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響により，私たちの地域の文化活動は大きな制限を受けました。行事の中止や活動の自粛が続き，人と人が集い，語り合い，共に時間を過ごす機会が失われました。

それは単にイベントが開催できなかったということだけでなく，地域のつながりが弱まってしまった期間でもありました。

龍郷町文化協会もまた，その影響を受け，活動の停滞や会員の減少，担い手不足など，さまざまな課題に直面しています。しかし現在，少しずつ地域行事や集落活動が再開され，「もう一度やってみよう」という前向きな空気が生まれつつあります。

今こそ，文化協会も次の一歩を踏み出す時期だと考えています。

2 文化協会を「開く」時代へ

これからの文化協会に求められるのは，「守る文化」から「育てる文化」へ，「内輪の組織」から「地域に開かれた場」への転換です。

子どもたち，若い世代，子育て中の親世代，高齢者の皆さんまで，誰もが関わられる文化協会を目指していきたいと考えています。

「文化協会に入らなければ参加できない」のではなく，「参加していたら，いつの間にか文化協会につながっていた」そのような自然な流れをつくっていただくと願っています。

3 子どもたちと一緒につくる文化へ

地域の未来を担う子どもたちの存在は，文化の継承に欠かせません。舞台，歌，踊り，朗読，昔話，絵や書など，さまざまな分野において，大人が一方的に教えるのではなく，子どもたちと一緒に作品をつくり，表現し，発表する文化活動を大切にしていきたいと考えています。世代を超えて一つの舞台をつくること，お年寄りの語りを子どもたちが劇や作品にすること，親子で文化に触れる場をつくること。文化は「教えるもの」ではなく，「共につくるもの」です。その姿を，龍郷町から発信していきたいと考えています。

4 ひとりに負担をかけない運営へ

これまで文化協会を支えてくださった役員の方のご苦勞は，大変大きなものでした。「大変そうで関わりにくい」「役員になるのが不安」といった声があることも承知しています。これからは，無理のない関わり方，少しだけ手伝う参加の仕方，期間限定の役割分担など，誰もが関わりやすい運営の形をみんなで考えていきたいと思えます。文化協会は，特別な人だけのものではありません。

せん。「できる人が、できるときに、できることを」そのような支え合いの組織を目指していきます。

5 つながりをも、もう一度。誇れる文化を、次の世代へ

文化は、人がいてこそ育つものです。人が集い、語り、笑い、表現することで、文化は息づきます。誰かの「やってみよう」が次の誰かの「私もやってみよう」につながる、そのような流れを文化協会から生み出していけたらと願っています。

喜界町文化協会の活動について

喜界町文化協会事務局 濱川 健一

1 はじめに

喜界町文化協会は自主的な文化活動を促進するとともに、郷土文化の普及及び本町の文化創造の機運を醸成することを目的とし、昭和 55 年 7 月に設立された。

令和 7 年現在、21 の加盟団体で構成されており、公民館講座や自主グループ活動を中心に日々の活動や練習に継続的に取り組んでいる。これらの活動は、町民の文化的な学びと交流の場として重要な役割を果たしている。

2 活動内容・計画

令和 7 年度の主なイベント

	事業名	会場
令和 7 年 6 月	第 14 回災害被災地支援 チャリティーショー	休養村管理センター
令和 7 年 8 月	喜界町夏まつり	湾港緑地公園
令和 7 年 12 月	第 10 回生涯学習フェスタ	町体育館
令和 8 年 2 月	シマ唄・シマゆみた発表会	中央公民館 旧館ホール
	第 8 回文化協会祭り	自然休養村管理センター

これらの事業は、加盟団体の日頃の活動成果を発表する貴重な機会であるとともに、町民が文化活動に親しむ場として位置づけられている。

3 活動状況

加盟団体は、それぞれの分野における文化活動を通じて、文化活動の意義や魅力を多くの町民に伝え、文化の継承および後継者の育成に取り組んでいる。

集落行事への参加に加え、各種イベントで日頃の練習の成果を発表しており、令和 7 年 6 月に開催した第 14 回災害被災地支援チャリティーショーでは、200 名を超える来場者があり、被災地支援への理解と協力を広く呼びかけることができた。

また、12 月に開催された生涯学習フェスタは公民館講座の活動成果の発表の場となっている。開催当日は暴風雨に見舞われたものの、300 席余りの会場が満員になる場面も見られ、町民の関心の高さが改めて確認された。

令和 8 年 2 月には、第 8 回文化協会祭りという本協会の大きな行事を控えており、引き続き多くの町民に楽しんでもらえるよう、準備を進めていく。

4 活動状況



5 おわりに

公民館講座や自主グループ活動を基盤とした加盟団体の取組は、チャリティーショーや生涯学習フェスタなどの発表の場を通じて、町民に元気と活力を与えるものとなっている。

一方で、人口減少や高齢化の進行に伴い、指導者や後継者の不足、新たな担い手の掘り起しといった課題も顕在化しており、今後の大きな検討事項となっている。

令和8年度には、喜界町が町村合併70周年を迎えるとともに、文化庁主催の「危機的な状況にある言語・方言サミット」が本町で開催される予定である。これらを重要な契機と捉え、これまでの取組を基盤に、地域文化の継承と発展に向けた更なる活動の充実を図っていきたい。

情熱の島「徳之島」を演舞でアピール

～徳之島闘牛太鼓の紹介～

徳之島闘牛太鼓 代表 眞形 綾子

1 はじめに

昭和 58 年に「徳之島をもっと活気のある島に」と、当時の青年団員達が和太鼓集団「闘牛太鼓愛好会」を結成。平成 4 年から「徳之島闘牛太鼓・十六夜（いざよい）エイサー」としてエイサーを中心に据え、オリジナル演舞等を手掛けています。

2 趣旨

徳之島で唄い踊り継がれてきた浜踊りの郷土芸能を演舞の中に取り入れる事で、島の伝統文化である闘牛のように激しく勇ましい躍動感を表現することを趣旨としています。

3 概要

子供から大人まで一緒に同じ舞台に出演しています。

(1) 活動

「鹿児島地域塾団体」に認証されており、青少年育成や伝統行事、地域の祭りへ積極的に出演。老人ホーム等への慰問も行っています。

(2) 練習日

大人 毎週木曜日 20:00～22:00

ジュニア 毎週日曜日 10:00～12:00

(3) 練習場所

徳之島町総合運動公園 陸上競技場管理棟

4 活動組織（図）等

未就学児から大人まで幅広い年齢層で構成しています。

5 活動計画

	行事名	場所
令和 7 年 4 月	まぶーるフェスタ（黒砂糖祭り）	畦プリンスビーチ
〃	さとうきび祭り	なくさみ館
〃	みじらん祭	亀津児童公園
令和 7 年 5 月	JA 祭り	亀津新漁港
令和 7 年 6 月	ODORI フェス（オドリフェス）	徳之島町文化会館
令和 7 年 9 月	どんどんフェスタ	徳之島町役場駐車場
令和 7 年 11 月	徳之島町文化祭	徳之島町文化会館
その他	各種イベント等への参加 老人ホーム等慰問 等	

6 活動状況



徳之島町文化祭



秋津神社祭り

7 成果と今後の課題

平成8年のアトランタオリンピックでは、「喜納昌吉&チャンブルズ」のエイサー隊の一員として出演しました。また、徳之島高校藏越エイサー隊の立ち上げや各団体への太鼓の指導をしていることが成果として挙げられます。

今後の課題としては、伝統芸能や方言等を子供たちが繋いでいけるよう、各地区の行事等へ参加することによって方言の意味を伝え、話していけるようにする事が重要であると考えています。

8 おわりに

徳之島闘牛太鼓は、今年で44年目となります。これからも地域に根差していけるよう、「明るく・楽しく・元気よく」をモットーに、地域高貢献と青少年育成に取り組んでいきます。